

在タッチの働きについての質問から

2019年4月1日現在

① 困ったケースに同行してもらうことはできるのか？

専門職の相談支援が主たる目的であるため同行訪問は基本的にはしない立場で考えております。担当専門職と本人、家族の関係を尊重しそれぞれが対応するためです。

しかし、訪問支援が必要であると判断した際には対応を検討していきます。

例えば・在宅医療、看取りを考えているが、家族の意見がまとまらず困っている

・ゴミ屋敷の片づけで、退院時どうしても人手が必要など

② 在宅の看取りが全国でトップクラスというお話しだったが、どのくらいなのか詳しい内容を知りたい。

区市町村 20万人以上都市分類において

年	順位	在宅死亡の割合 (%)	全国平均 (%)
H26	10	18.5	12.8
H27	6	20.6	12.7
H28	9	19.5	13.0

厚生労働省のHP「在宅医療にかかる地域別データ集」より

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>

伊達市は20万人以下の分類で上位にあります。

※順位計算はこの2分類に分けられています。

③ ホームホスピスや医療に強い施設について詳しく知りたい。また、在タッチから紹介してもらえるのか？

医療機関、施設の特性や紹介は大切な業務の一環です。できるだけ現場で役に立てる情報を提供していきたいと思っております。

社会資源の確認として連絡いただいても結構です。よりよい支援がないか共に考えていきましょう。

④ セカンドオピニオンについての相談もできるのか？

医大にあるセカンドオピニオン外来や、他の医療機関で診てもらうために必要な主治医の診療情報など、相談してください。

⑤ どのくらいのレベルだったら相談できるのか？

自宅療養支援においてこれで良いのか、その他の方法がないかなど想定しております。

・外来通院が難しい・難病 ・ガン末期・認知症で医療、介護、その他の支援方法を聞きたい等。

困ったとき、確認したい時など気軽に相談してください。

⑥ 主治医とケアマネの間に入ってもらえるか？

ケースバイケースになると思います。MSWなど相談員がいる場合はそこを通して調整のお願いをしています。MSWがない医療機関で問題点を整理して対処方法などお伝えしていきます。

⑦ 薬局とのやりとりはしてもらえるのか？

薬局薬剤師との相談、支援も行っております。調剤薬局で対応してほしいことの相談を中心に、自宅訪問、居宅療養管理指導についての算定、残薬処理、医療用麻薬の管理などが想定されます。お気軽にご相談ください。

薬剤師の先生全体に周知やお願いがあると判断した際は、薬剤師会の在宅担当委員の方と相談していきます。

⑧ 本人が K 町 F 病院入院中で、娘は福島市在住。福島市の病院へ転院させたが…このような場合に病院を紹介してもらえるのか？

病状にあった受け入れ病院の候補をお伝えできると思います。その後の対応としては相談先の病院MSWとの相談になります。

⑨ 在宅での看取りの相談をしてもよいのか？

在宅支援において看取りの相談は大切な役割です。本人と家族の思い、不安、どのような支援があり、負担があるのか。予想されるリスクや亡くなった後困らないように相談しながら確認していきましょう。

⑩ お金がなく受診できない人をどう支援したらいいのか？

まず、どのような収支の流れがあるのか整理します（生活保護適用の可能性や不可解な支払いがないか確認）。

年金額が少なく生活がぎりぎりの人もいらっしゃいます。福島市「生活相談支援窓口」（市役所2階）にて経済的な問題や生活上の困りごとに対する自立相談支援事業に相談します。

低所得者等で経済的理由により診療費の支払いが困難な方は、無料低額診療事業があります。無料または低額で診療を行います。市内の実施医療機関は、大原総合病院、済生会福島総合病院、医療生協わたり病院があり医事課へ相談します。

⑪ 独居・老老介護・身元保証人不在のケースについてどのような支援があるのか？

支援において共通することは、本人がどこで過ごしたいのか、そのために何が必要なのか、何が足りないのかの情報を整理し支援方法を確認していきます。

身元保証人不在においては、本人と相談しながら、保証人になってくれる方、民間団体へ依頼するかを検討します。

それぞれのケースの個別性、住んでいる地域によって支援できる体制はさまざまであると考えられます。その都度、状況を聞きながら課題整理、今後の見通しを相談していくことができます。今後、事例検討などで課題や情報共有する研修会、それぞれの支援ポイントを一般化する研修会などを検討していきます。

⑫ 医師会や地域の開業医の先生方はどのくらい認知してくれているのか？また、どのくらい連携はできるのか？

福島市医師会各委員・役員（医師39名）合同意見交換会、医療・福祉・介護委員会（医師8名）にて当センターの役割を説明、状況報告させていただきました。

市内病院21ヶ所、開業医は在宅医療を行っている診療所62ヶ所、認知症専門医・サポート医7名の医師へ訪問し事業内容の説明をさせていただきました。

相談内容により、医師会を通しての周知やお願いを始め直接医療機関へ状況を説明し調整しております。